



国際女性デーからスタート 歩く国際協力 「Walk in Her Shoes 2025」

当財団は今年も、3月8日「国際女性デー」から、水汲みのために毎日歩かなければならない途上国の女性や女の子たちの身になって歩く、シンプルで健康的なキャンペーン、歩く国際協力「Walk in Her Shoes 2025」を開始。14年目の今年は、参加者全員で14億歩を目指します。歩数を報告すると「500歩につき1円」が、またCAREの「C」や「水」に関連する写真を#歩く国際協力2025を付けてSNSで投稿すると「写真1枚につき100円」が協賛企業から寄付されるほか、3月23日には「世界水の日」チャリティウォークも開催するなど、たくさんの企画をご用意しています。そして、今年は新たにGPSアートの写真投稿による参加方法も加わります。さらに、3人以上のチームで参加をするとエントリー費がお得に。家族や知人・友人を誘って、みんなでチャリティを盛り上げていきましょう。4月23日までエントリー受付中。詳細は当財団ホームページから。

国際女性デー 2025 オンライン企画

すべての女性と女子のために 一権利、平等、エンパワメントを

今年の国際女性デーのテーマは、「すべての女性と女子のために一権利、平等、エンパワメントを」。このテーマを踏まえ、当財団では、権利、平等、エンパワメントを求めて挑戦をする女性たちのストーリーをホームページ等で紹介します。ぜひ、インドやスーダンなどで挑戦を続ける女性たちの勇姿をご覧ください。

会期：2025年3月1日(土)
～同年3月31日(月)
会場：当財団ホームページ



© Ala kheir/CARE

スタッフ紹介



個人寄付担当
青井 歩

パナソニックで25年間法人向けソリューション営業に従事してきましたが、国際協力の分野での挑戦を決意し、今年2月に入局しました。マーケティング部で個人寄付を担当しており、現在は今年14回目を迎える歩く国際協力「Walk in Her Shoes」の推進などを行っています。皆さまのあたたかいご支援をいただきながら、学びの多い日々を楽しんで過ごしています。世界の分断が進むなか、CAREを通じて思いを届けてくださる皆さまと一緒に、希望のある未来を実現するために努力を続けます。



個人寄付担当
山田 麗

2024年11月からマーケティング部で、東京マラソンチャリティランナーへのノベルティやクラウドファンディングでの活動報告の準備などを行っています。前職はメディアでサステナブルをテーマに、イベントや日本語記事を担当し、より良い世界のために活動する人々や企業・団体を世界に向けて紹介していました。その頃から、いつかは伝える側ではなく活動する側で頑張りたいと思っていました。国際協力NGOでの経験は全くありませんが、CAREの活動の小さな一翼を担えればうれしいです。

個人支援者専用ダイヤル TEL:03-5944-9931

CARE アクションする

公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン

〒171-0031 東京都豊島区目白2-2-1 目白カルチャービル5階
TEL:03-5950-1335 FAX:03-5950-1375

E-mail: info@careintjp.org Website: www.careintjp.org

Facebook: www.facebook.com/CAREJp Twitter: https://twitter.com/CAREJp

※小誌へのご意見、ご感想を募集しています。
発行元までお寄せ下さい。

※このニュースレターのデザイン・レイアウトは、CAREの
デザインボランティアの会田ひとみ様のご協力により、制作されています。



ケア・インターナショナル ジャパン ニュースレター CARE World Vol.48 2025年2月28日発行 発行人：目黒田周一郎 編集：甲斐 博子

CARE World

Vol. 48 ケア・インターナショナル ジャパン Newsletter February 2025



ケア・インターナショナル
ジャパンは、世界100か国
以上で人道支援活動を行う
国際NGO ケア・インター
ナショナルの一員です。
災害時の緊急・復興支援や
「女性や女子」の自立支援
を通して、貧困のない社会を
目指しています。

Contents

- page 1 CAREの最新動向
開発支援事業
東ティモール
「遠隔集落における生業改善事業」
駐在員の1日
- page 2 緊急支援事業
ガザ人道危機緊急支援
ウクライナ危機緊急支援
- page 3 歩く国際協力「Walk in Her Shoes 2025」
- page 4 国際女性デー関連企画「挑戦する女性たち」
スタッフ紹介



アジア・太平洋地域のネットワーク強化に向けて

CAREは、急速に変化する世界情勢に対応すべく「ビジョン2030」のもと団結し、また、より機敏かつ影響力のあるネットワークとなるためにガバナンス改革に取り組むとともに、新しいモデルでの活動方法について検討しています。その戦略上の重要課題の一つとして、地域主導の取り組みをどのように継続的に加速するのかが協議するため、2024年11月18日から3日間、タイ・バンコクにおいて、アジア地域の事務局長・地域事務所長（日本、インドネシア、オーストラリア、スリランカ、タイ、アメリカ（アジア地域事務所長））による初めての会合が開催されました。

会議では、地域レベルでの相互連携の促進、地域内外のネットワーク強化、また地域全体の持続可能なインパクトの達成および影響力の向上の必要性を再確認しました。そのうえで、緊急人道対応、女性の経済的エンパワメント、若者のリーダーシップ、保健、気候変動への適応と緩和にかかる資金調達に重点をおき、政府、民間セクター、市民社会とのパートナーシップ構築、リソースの開放等を通じて、広範な地域関与の機会を創出、キャパシティビルディング、政策への働きかけとアドボカシー、多様性と包摂性、財務的持続可能性を高めていくための戦略について議論しました。

当財団は、今後もアジア・太平洋地域事務所をはじめとするCAREとの連携・協力のもと、効果のある活動を続け、より確実な事業成果を出して参る所存です。

(事務局長 児玉 光也)



2024年11月4日～6日(バンコク) 「アジア地域リーダーシップ・チーム ワークショップ」に参加

気候変動、若者の雇用、債務負担、民間セクター、デジタル・イノベーションに関する外部有識者によるパネルディスカッションから始まりました。今後5～10年間で想定されるアジアにおける重要課題やCAREのような組織の役割などに関するパネルディスカッション後、グループに分かれて、具体的な戦略について意見を出し合いました。

経済的に発展し、世界の技術革新をリードする国も多いアジア地域において、私たちが今後どのように活動を展開していくべきかについて考えるとともに、イノベーション、テクノロジー、気候変動などはとても重要なキーワードであり、日本も大いに貢献できると感じました。また、世界中が気候変動の影響を受けており、CAREも気候変動の影響に対する回復力と適応能力の強化などに取り組むなか、例えば二酸化炭素の排出を抑制するための活動など予防的な取り組みが不足しているのではないかという意見なども出され、様々な視点から私たちの活動を捉え直す機会となりました。

(東ティモール駐在員 伊藤 洋子)



開発支援事業

東ティモール「遠隔集落における生業改善事業」

東ティモールのエルメラ県アッサベ郡で本事業を開始してから1年。同国駐在が4年目に入った伊藤現地総括に近況を聞いてみました。

Q：今はどのような活動を行っていますか？

現在アッサベ郡の4集落で支援活動を実施しています。「村落貯蓄貸付組合」の活動では、各集落、23人から30人のメンバーが毎週、決められた金額の範囲内（2.5ドル～12.5ドル/週）で持ち寄り、貯金をしています。また、グループ毎にメンバーが借りられる金額にも最低50ドルから1,000ドルまでと決まりがあり、その範囲内で順番に借入をしています。借りたお金は、伝統織物のタイスやコーヒーの売買などの小規模ビジネス、子どもの学費の支払いなど、様々な用途に使われています。

2024年5月から6月にかけてグループを設立し貯金を始め、1グループ当たりの預金額は11月末には4千ドルを超え、年明けの1月にシェアアウト（貯金と利息で得た資金の分配）を行いました。

「農民グループによる野菜栽培と販売」の活動では、25人から31人のメンバーが、すでに昨年11月から収穫した野菜を販売しています。少ないグループで月90ドル、一番多いグループで195ドルを売り上げています。野菜は、学校給食、地元市場、近所の人たちに販売しています。



▲ 入金を確認するメンバーたち

Q：前事業の「農業用水改善事業」と比べると、農民の人々の意識の違いなどを感じますか？

「遠隔集落における生業改善事業」では村落貯蓄貸付組合の活動があるので、この組合に参加すると基本的に途中で辞めることができません。また、この組合メンバーと農民グループのメンバーはほぼ同じなので、農民グループの活動も必然的に辞めることができず、毎週、村落貯蓄貸付組合の会合で顔を突き合わせて話す機会があるため、前事業と比較して、農民グループの活動が活発になったと感じています。

◀ 市場調査を行うメンバーたち

Q：伊藤さんの生活は、前事業と比べると変わりましたか？

東ティモール駐在は4年目になりましたが、今、生活の面での楽しみには何ですか？ また、首都のディリにおられるときの平均的な1日のスケジュールを教えてください。

私生活ですが、前事業の時と同様、驚くほど単調な生活を送っています。スケジュールが許す限り、毎月アッサベに5日から10日くらい滞在し、それ以外をCARE東ティモール事務所があるディリで過ごしています。アッサベ滞在中は、できる限りコミュニティを訪問し、現場の状況を把握するように努めています。

生活の面での楽しみは、ご近所さんと一緒にご飯を食べたり、猫や犬の世話をしたりすることです。他には、ダイビングに行ったり、10月から11月の東ティモールの海域をクジラが通る季節には、クジラと泳ぐツアーに参加したりします。猫や観光地の動画をYouTubeやTikTokに投稿したりするのも楽しんでいます。

ディリでのとある1日

- 7:00 **起床** すでに3年くらいお隣さんから預かっていて猫にご飯をあげる。ヨガをして、身支度をして、さらにコンパウンドに住む外猫たちにご飯をあげて、自転車ですぐに30分くらいかけて出勤。
- 8:30 **仕事開始** 仕事前にコーヒーを楽しむ。アッサベの活動の進捗状況を把握したり、書類を作ったり、ミーティングに出たり、他の部署にフォローアップに行ったりしている間にお昼に。
- 12:00 **お昼休み** 持参したお弁当を食べる。
- 13:00 **仕事再開** 午前と同じようなことをしている間に、終業時間。
- 17:00 **自転車で帰宅** 途中で、スーパーに寄って食料の買い出し。帰宅と同時に、外猫と、コンパウンドの犬にご飯を催促されるので、急いでカリカリをあげる。
- 18:00 **夕食作り** ご近所さんたちと一緒に夕ご飯を食べる。
- 19:00 おしゃべりしている間に、22:00に。あわててシャワーを浴び、その後YouTubeで世界のニュースなどを見る。
- 23:00 **就寝**
- 23:30



Q：日本の支援者へのメッセージをお願いします。

私たちの活動地のアッサベという場所は、東ティモールの山の中で、東ティモールの中でも特に美しい場所ですが、かなりの遠隔地です。頻りに停電し、インターネットも使えなくなったり、雨期には土砂崩れや豪雨による川の増水で道が寸断されたりと、生活するにはかなり大変な場所です。そのような厳しい環境にもかかわらず、フィールドスタッフたちは、アッサベの町からさらに奥地にある集落まで住民を支援するために奮闘しています。また、活動に参加する村落貯蓄貸付組合や農民グループメンバーたちも、貯蓄をして小規模ビジネスを始めたり、野菜栽培をして売って収入を得たりと、自分たちの生活状況を改善するために一生懸命がんばっています。東ティモールの皆さんのがんばりをこれからも応援していただけますようお願い申し上げます。

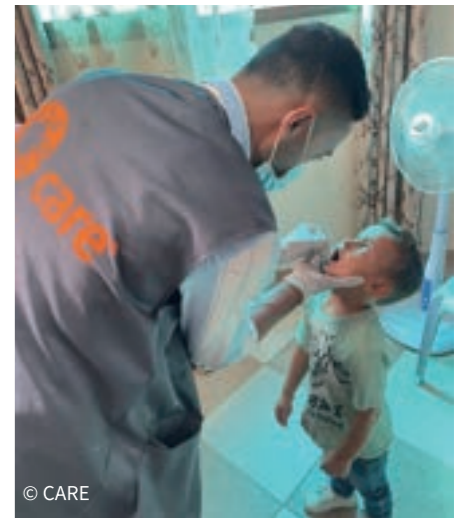
緊急支援事業

世界各地で激化する武力衝突。紛争地域における人道支援活動は極めて困難で甚大な危険を伴います。それでも、現地のCAREチームは、圧倒的な支援ニーズに対応するため、たゆまぬ努力を続けています。

ガザ人道危機緊急支援

ポリオの発生は、回避可能な人々の苦しみを拡大し、人道支援を困難にしています

毎日500台の物資を積んだトラックが往来していたガザ地区の日常は2023年10月7日を境に一転。2024年12月時点では、毎日75台に激減し、地区人口の91パーセントが飢餓状態にあります。人道的アクセスが著しく制限された2024年夏、四半世紀前に同地区での撲滅が確認されたポリオが発生。これは、回避可能で予防可能な人々の苦しみを拡大し、人道支援を困難にしていることを示す事例です。CAREは、国連機関と連携し、接種キャンペーンの最初の3日間で、デイル・アル・バラの一次医療センターで、10歳未満の子どもたち2,124人に、新型経口ポリオ・ワクチン2型を2滴ずつ投与しました。



© CARE

ウクライナ危機緊急支援

ロシアによる軍事侵攻開始から3年、継続的な関心と支援が求められています



© CARE Ukraine

ウクライナでは重要な電力インフラへの日常的な攻撃が続いています。停電、割れたり損傷したりした窓や屋根、暖房のないアパート、そして強制移住。厳しい冬の只中の2024年末、CAREは、ヴォフチャンスクから国内避難を余儀なくされた150世帯に対し、ハルキウで冬用キットを届けました。このキットには、ヒーター、暖かい毛布と枕、モバイルバッテリー、ソーラーランプ、ガスコンロが含まれています。これらの物資すべてが、国内避難民の人々が暖をとり、この寒い困難な時期を乗り越える助けとなるはずで

CAREウクライナのチームでは、スタッフの10パーセント以上が家を失った、または家を離れることを余儀なくされています。彼ら・彼女らの仕事は危険を伴いますが、支援活動を続けるためにその状況を受け入れています。ウクライナの人々もガザ地区の人々も、再び立ち上がり得る回復力があります。しかしながら、大きな課題に立ち向かうには、継続的な支援が必要となります。皆さまの継続したご支援をよろしくお願いたします。



© CARE Ukraine